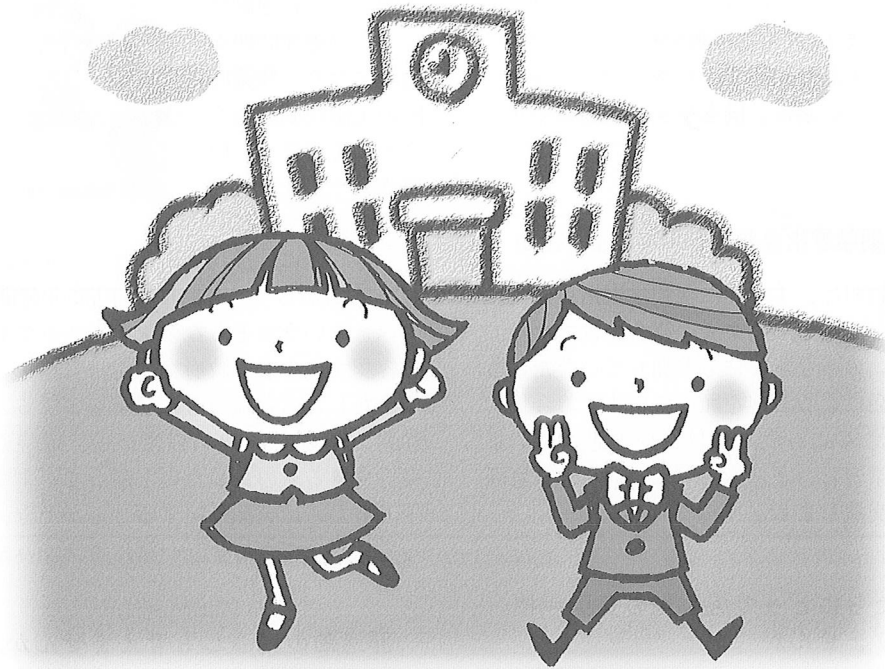


# 道 教 組

DOKYOSO NEWS vol.521



## こどもたちにとって居心地の良い学校

道教組第30回定期大会を開催

川村安浩執行委員長あいさつ

道教組定期大会の討論

5月までの重要課題

わたしのとっておき

## 全道の教職員の皆さん

# 子どもたちにとって居心地の良い学校、 教職員にとって働きやすい職場を一緒に作りませんか

いよいよ新年度が始まります。

私たち道教組は、組合員だけでなく、多くの教職員の皆さんと力を合わせ、子どもたちにとって楽しい学校、教職員にとって働きやすい職場をめざし、日々運動を展開しています。全北海道教職員組合は、1990年に結成され、全道に11単組、3連絡会があります。近くに道教組組合員がいれば、組合についての話を聞いてください。力を合わせ、いっしょに楽しい学校、働きやすい職場づくりをしませんか。

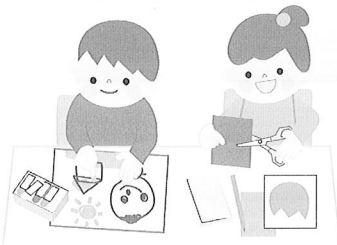
### 一緒に次期学習指導要領を学習しませんか

私たち道教組は、1学期に次期学習指導要領について学習を予定しています。組合だけでなく、職場の教職員のみなさんにも参加していただけるような学習会になることを願っています。今後、職場のみなさんにも声をかけたいと思っています。一緒に学習し、子どもたちについて、教育課程について交流しましょう。

### 子どもたちにとって居心地の良い学校 をつくりませんか

次期学習指導要領では、小学校5・6年に英語が教科として導入され、授業時間数も増えます。今でさえ子どもたちが楽しみにしている休み時間

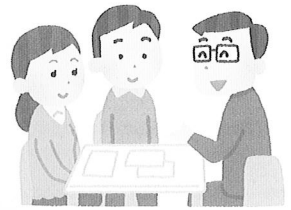
が減らされ、休み時間の体力づくり、朝の短時間授業などが増えています。子どもたちにとって仲間と遊ぶ体験は発達上重要



です。子どもたちが息苦しい時間割では、不登校、登校拒否がさらに増えるのではないかと心配です。

### 働きやすい職場をつくりませんか

国会でも超過勤務による過労死問題が論議になり、残業時間の上限規制が話し合われています。政府が繁忙期は月100時間未満まで容認し



ていることに、批判が出されています。

野党側から「月45時間、年間360時間」程度にすべきというまともな要求が出されても、過労死を容認するような政府案です。

わたしたち教職員も、健康を害するような超過勤務を見直し、「ノー残業デー、定時退勤日」を実行できるものにしたいと願っています。毎日、子どもたちに笑顔で接することができ、余裕をもって仕事ができるよう一緒に考えてみませんか。

### 部活動の見直しも考えませんか

教職員は常態化する超過勤務で、心身共につかれています。部活動が忙しすぎて、土日の休養がほとんど取れない教員もいます。

文科省も外部人材の活用や週に1回の休養日確保を言っています。子どもたちにも休養日が必要だということを、保護者に理解してもらいましょう。

部活動については、組合だけでなく様々な教育団体から文科省に多くの改善要求が出されているのです。みなさんの学校の部活動についても、子どもの声を聞きながら見直してみませんか。

# 道教組第30回定期大会を開催

3月11日～12日、札幌市内において道教組第30回定期大会が開催されました。挨拶に立った川村委員長は、子どもの学習権、学びの保障、教員の多忙化と学校についてふれ、報告しました。

また、全教の米田副委員長、道高教組の國田執行委員長、道労連の黒澤議長、全教自動車保険代理店の川上社長、道退教の大原副会長からごあいさつをいただきました。

楢木書記長からは2016年度運動総括、2017年度運動方針、新保副委員長から新単組結成に伴う承認について、中間決算、予算案の提案がありました。

2日間の討論では25本の発言と2本の指定討論（北海道子どもセンター・共済会）があり、職場や地域で苦勞しながらも実践や職場づくり、組合員のつながりの大切さ、組織拡大、共済会の加入促進のとりくみ等について討論がありました。

提案された議案は全会一致で可決され、道教組の新役員も選出されました。

## 川村 安浩執行委員長あいさつ（要旨）



今日は3月11日です。東日本大震災から6年、震災で命を落とした方々のご冥福を祈り、被災地の復興を心から願っております。

### 1、子どもの学びを巡って

1つは「子どもの学習権を守る」という視点です。

日本を覆う貧困と格差の拡大は深刻です。とりわけ、子どもの相対的貧困率は16.3%となっています。

私たちは、ほんの小さな一歩を踏み出したに過ぎない「給付型奨学金」の拡充を求めるとりくみをはじめとした運動を前進させ、「お金の心配なく学び続けることができる」教育を国の責任で実

現させなければなりません。

もう1つは「子どもたち一人ひとりの学びを保障する」という視点です。競争主義に染まっている「全国学力テスト」体制の下、「チャレンジテスト」を押し付けられ、「学ぶことは点数を取ること」と追い立てられている子どもたちは、学ぶ喜びから遠ざけられてはいないでしょうか。

2006年、教育基本法が改悪されました。その具体化が2月に公表された次期学習指導要領です。学びの本質は何であるのか、学びの真実はどこにあるのかをしっかりと見通し、子どもたちのたしかな学びと豊かな成長を守り抜きましょう。

### 2、教員の多忙化と学校

次期学習指導要領は、子どもたちの学びを統制するだけではなく、教員の多忙化をより深刻化させ、学校づくりにも大きく影響を与えるものになっています。授業準備の量も質も今以上に求められることが予想され、2020年の本格実施では、小学校では外国語の教科化などで週1コマ増えることとなります。

教員の多忙化と過密カリキュラムは、学校から合意形成の場を奪い、教職員から合意形成の力を奪います。私たちの「協力共同の学校づくり」という運動は、一層輝きを増すでしょう。子どもの発達を保障するということを中心に据え、そのためにはどう学校をつくっていくのか、学校づくりの真実を確かめ合いましょう。

「教師は真実を見通す目を持ち、子どもたちには真実を見抜く目を育てる」という立場を堅持したいと思います。そして、それが私たち教職員の責務であると自覚し、そのことを握って離さずに教育活動を進める先頭に立つのは、私たち教職員組合でありその組合員であります。

## 道教組定期大会の討論



藤田 真一代議員(全釧路教組)

ある学校の教員が通級教室のことで校長に相談したところ、人格を否定されるようなパワハラにありました。子どもが困り感を抱えているのは、教員のせいだとか、高圧的な言動をあげられました。

副支部長から支部長の私に連絡があり、すぐ質問・要求書をつくり、校長と交渉になりました。校長はパワハラを認め、3学期は民主的な職場づくりを行うとの回答でした。他にもある問題で困っている教職員を助け、組合に加入してもらうことができました。



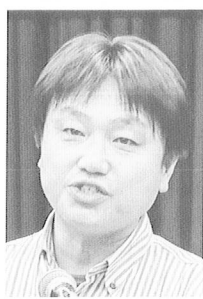
長谷川みどり代議員(檜山教組)

原水禁世界大会が毎年行われます。檜山から若い世代を送るため、「原水禁世界大会に代表を送る檜山の会」を立ち上げました。上ノ国の高校生3名が立候補し、多くの募金が集まりました。ある高校

では、募金袋をまわすことを校長が許可してくれました。3月に世界大会の報告会を開催し、高校生から「資料館は衝撃的でした。視野が広がりました。若い世代にきちんと伝えることが大事」との話がありました。参加者からは「願いが確実に引き継がれている。なんとすてきな高校生だろう」との感想がありました。

山口 幸紀代議員(全釧路教組)

「ゆきとどいた保育と教育を考える会」について発言します。この会は、数年前にできた釧路市学力保障条例にかかわってできた会です。「学力って何だろう」ということを学びながら会を継続



してきました。構成メンバーは、教職員、保育士、女性団体、教育大の教授が参加していて、月1回の学習会を開催しています。いろんな職種の人が地域の子どもの様子を語ることで、知らないことが分かり、お互い励まされて

います。「情報交換と元気になる場」として会を立ち上げてよかったと思います。そして、釧路版子ども白書をだすことができました。



大石 準代議員(宗谷教組)

若い人とのジェネレーションギャップを感じています。組合の話や飲み会に誘ったら参加してくれますし、署名活動にも協力してくれます。でも、お金に対する考え方が全然違います。組合に誘っても

なかなか入ってくれないのです。高い(?)組合費を払うことに抵抗感があるのでしょうか。僕はどのように組合に入ったのかと考えると、心意気に感銘して入ったのかなあ。「組合に入ることは生きざまだよ」と言われたことも思い出しました。組合に入ることで変わることもあるという思いがあり、何とかそうした経験を生かしていきたいです。



和田 朗代議員(網走教組)

昨年12月、組合運動づくり学習会を開催しました。網走教組11名と道教組・他教組からの参加者で4時間もの学習を行いました。組合が「上から指示されたから、毎年やっているから」ではなく、組合

の主体性、創造性こそが求められています。今ある学校の問題点を乗り越えながら、良い点は取り込み、子どもたちに確かな学力、本当の学びを保障していきたいのです。地域、行政、みんなに支持される教育をしていきたいという発言もありました。6月には「えがお署名」にとりくみ、その後、焼肉会をやろうと計画を練っています。



新田 智子代議員（渡島教組）

渡島は、全員参加による第1回定期総会を行い、過半数の参加で総括・方針を承認してもらいました。昨年5名が退職し、1名は再任用になりました。5月に「歓迎と連帯のつどい」を行い、加入した

先生だけでなく、未組織の先生も2名参加してくれました。支援員の方から担任と子どもたちの間で悩んでいるという話がありました。支援員の立場の難しさがあり、担任に言いづらいのです。この会をきっかけに、加入していただきました。1人分会が多いのですが、子どものこと、教育のことを職場で話せるようになり、そして組合加入の話ができればと思います。



関屋 元代議員（空知教組）

空知教組は十数名ですが、持続可能な組合をめざしています。この間組合員から寄せられた意見を紹介します。「小さい組合で恩恵が見えない。北教組との違いが見えない。組合って本当に必要なの。組合員同士、腹割った話ができている」などの意見があり、大会でもみんなで交流しました。組合員からは「教育制度を勉強するのは組合が一番だ。組合が我々の権利を守るために交渉する組織として必要だ」という意見もありました。大会に向けて自分たちの活動を整理しました。空知教組は自

発的に活動し、要求の一致点で活動する組織。組合費は高いけれども、みんなが納得する活動を考えましょう。各種集会への参加要請がありますが、趣旨に賛同し、納得して参加してもらうことが基本。大会後の食事会で、役員への立候補者が出ました。女子会では「空知教組に入ってよかった」との発言も出たそうです。

国保いずみ代議員（養教部）



学校の保健室は、子どもたちのつらさや困難が持ち込まれる場でもあります。土曜授業が増え、子どもも教師も疲れています。また、ゼロトランスで指導する厳しい先生がいると、子どもたちは管理

や細かい指導で学校が嫌になり、そんな学校に通う養護教諭の足取りも重くなります。家庭生活での安全・安心が満たされない子は、学校で頑張れない。授業についていけない子は、教室に行きたがらない。全国でつらさや困難を抱え、不登校の子が12万6千人にもなり、過去最高です。学習の問題も大きいと思います。授業についていけない不安や焦り、そのため頭が痛い、息が苦しいと訴える子もいます。新しい学習指導要領は、さらなる詰込みで、さらに不登校が増えないか心配です。子どもたちが生きいきと成長発達できるように考えるべきです。

紙面の都合上紹介できなかった討論参加代議員

紙面の都合上紹介できなかった討論参加代議員

泉谷好子（檜山）、寺川真幸（根室）、菊池大（宗谷）、山本仁史（網走）、河合一臣（宗谷）、中里明雄（胆振）、大井川誠（雄島）、青木志暢（檜山）、中村千賀子（宗谷）、佐々木一次（石狩札幌）、大口加代子（檜山）、末村哉子（宗谷）、谷幸司（日高）、永島敦史（事務職員部長）、太田和真（青年部長）、遠藤美由樹（女性部長）、田中豊一（障教部長）※敬称略

## 梶木書記長

### 討論のまとめ



2日間の討論のまとめを行います。

1つは、釧路や宗谷から発言がありましたが、組合にこだわらず地域の方と共同のとりくみを行っている報告がありました。教職員だけで子ども

の問題を解決できないからです。

2つ目は、学習を重視していることです。次期学習指導要領とどう向き合っていくのか、わたしたち自身が主体的に向き合っていく事、子どもたちを大事にしていく事が語られました。

3つ目ですが、道教組全体としても、各単組としても現状維持するのも厳しいですし、新しい組合員を迎えるよりも去っていく退職者の方が多いという状況もあります。そのような中でも、組合活動を主体的に、創造的に、知恵を出しながらやっていることが語られました。この発言を聞いて励まされ、自分たちの組織でもやってみようという思いが芽生えたのではないのでしょうか。

代議員として参加した書記さんの討論もあり、組合を支えているのは書記さんなんだということ



宗谷の中村書記



来賓の道高教組國田委員長

を改めて感じました。

また、「つながり」についても語られました。新年度は、全教の組織強化・拡大「3か年計画」の3年目になります。今いる自分たちの仲間がどう思うているのか、どういうところで悩んでいるのか、それをお互い語り合わないとは分かりません。組合は助け合うところですから。

討論でも語られましたが、私たちの仕事は未来をつくる仕事、これに尽きると思います。

## 選出された2017年度道教組役員

役職	氏名	所属
執行委員長	川村 安浩	空知
執行副委員長	高橋 勇	全教いぶり
	古川 晃男	全釧路
	内藤 修司	宗谷
	新保 裕	道教組
書記長	新保 裕	道教組
書記次長	安里 朗	檜山
	斎藤 鉄也	全釧路

役職	氏名	所属
執行委員	中山 裕一	根室
	梶木 康展	全教石狩札幌
	山本 民	宗谷
監査委員	秋山みゆき	全教札幌
	白鳥 克己	全教いぶり
	中村 賢明	上川

# 5月までの重要課題について

道教組第30回定期大会で確認された5月までの重要課題は次の通りです。

## 1 協力・共同（協働）の学校づくりの合意を職場で広げよう

春の「職場要求書」用いた校長・教頭との話し合いを重視します。「どんな学校づくりをめざすのか」について具体的事例を交流しながらイメージし、道教組が大切にしている「協力・共同（協働）の学校づくり」を前進させます。

- 3月中～4月前半：「要求書」について支部・分会で討議する。
- 4月末まで：学校長に「要求書」を提出し、話し合う。

## 2 職場の教職員を誘い、全道連鎖学習会の成功をめざそう

改訂学習指導要領全道連鎖学習会をすべての単組で早期に実現させます。そこに、同僚や知人教職員を誘う「職場で誘う学習会」をめざし、自校の教育課程の改善や実践づくりにつなげます。この学びを通して、参加者どうしのつながりをつくり、その後、組合加入も呼びかけます。

## 3 憲法改悪の策動に反対し、憲法を守りいかすとりくみを職場・地域で広げよう

憲法施行70周年の今年、安倍政権は本丸である憲法9条改定に向け、「緊急事態条項」の創設や憲法24条（家族生活における個人の尊厳と両性の平等）を入口に明文改憲をねらっています。さらに、テロ防止を口実に国民の自由を監視する「共

謀罪」法案の成立をはじめとする策動を許さず、憲法をいかす政治・教育の実現に向けて憲法学習を職場・地域でとりくみ、学びと運動を広げます。

また、来るべき解散総選挙に向けて政治と教育の学習を強化し、主権者意識を高めていきます。

- 憲法学習会、「憲法カフェ」への参加、討議資料や署名、チラシを活用する。
- 「共謀罪」創設反対緊急統一署名にとりくむ。1人1枚5筆 最終集約5月19日（金）
- 全労連「労働組合入門わくわく講座」や勤労者通信大学（「労働組合コース」「基礎理論コース」「憲法コース」の受講を広げる。（青年には参加費の補助があります）

## 4 春の組織拡大・強化（組合・共済）で大きく前進しよう

以下8つを重点とし、「めぶく」「はじける」「かりとる」「あたためる」の4つの集中月間できりくみをすすめます。

- ①「新採総あたり」対話活動 ②青年教職員の要求に応えるとりくみ ③職場訪問で1人分会を激励 ④「つながりづくりのための5,000円」や「集い合い促進費」を活用し、未組織教職員を誘う ⑤組合員どうしの「交流・つながり」を大切にしたりくみ ⑥組織間連携を強め、学習や激励をする ⑦早期に現勢回復を達成し、前年度減数前組合員数比10%アップを追求 ⑧組合と共済加入を一体的にとりくむ

5月までに対話350人、拡大45人を！

### 編集後記

先日、目を疑うような記事が新聞に掲載されていました。記事によると、松野文科大臣は3月14日の記者会見で、教育勅語を学校現場で教材として用いることについて「憲法・教育基本法に反しない適切な配慮」があれば可能との見解を示しました。適切な配慮かどうかは「諸官庁（都道府県

など）が判断・指導されるもの」としました。これまで文科省は国会答弁などで、「教育勅語そのものを教材とするのは考えられない」との認識を示していました。この方針変更は、看過できない問題です。（新保）

# わたしのとっておき

“とっておき”の写真・絵・短歌・川柳など紙面で紹介できる作品募集。頁下メールアドレスへご連絡を。



## 「農村ホームステイで酪農体験」

体験しなければ分からない仕事の様子や酪農家の熱い思いに触れ、とても勉強になりました。2月にテレビでも放映され、たくさんのメッセージをいただきました。実践を通してたくさんの人と繋がれると実感しました。

【齋藤 鉄也 (厚岸町太田小学校)】



## 「喜びの豆まき」

一人の児童の快方祝いにと思いついたことが全校に広まっていく。先生方のアイデアと行動力。鬼役をした高学年への低学年からの感謝。阿寒小も他と変わらず忙しい毎日です。でも大事なことを先生たちは忘れてはいないですよ。

【中川 由美 (釧路市阿寒小学校)】

# 全教自動車保険

## 「見積り依頼」でハーゲンダッツをプレゼント!



小納谷部長  
(川上企画)



雪もなくなり、春らしくなってきました。教職員の皆さん、スピードの出しすぎに気を付け、安全運転に心がけましょう。

提携 東京海上日動火災保険株式会社

### 全教自動車保険加入にあたっての5つの特長

- ①無事故割引を他の保険会社や一部の共済から引き継げます
- ②保険料は給料引去または口座振替
- ③ご家族の車でも、何台でも加入OK
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

手続き

カンタン

有限会社 **川上企画** (道教組指定代理店)

札幌市中央区南大通西12丁目4-78 ウエスト12 1階  
フリーダイヤル 0120-222-789 FAX 011-218-2472

## 道教組

2017年4月1日発行

発行 全北海道教職員組合 発行者 川村安浩 〒060-0909札幌市東区北9条東1丁目 北海道労働センター3階

TEL(011)742-0101 FAX(011)742-1001 メールアドレス dokyoso@seagreen.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.dokyoso.net>